

公園整備の観点からみた余暇活動のためのまちづくりに関する考察

馬場美智子 [国土交通政策研究所]

キーワード：余暇活動、まちづくり、ウォーキング、予防医学

1. はじめに

我が国は成熟期を迎え、人口増加、右肩上がりの経済成長からのパラダイムの転換を求められている。時間的なゆとりは増加する一方で、経済的なゆとりは減少する傾向にあり(図・1)、物質的な満足や経済的な上昇志向を求めるような社会の枠組みから、精神的な満足や個人に合った仕事やライフスタイルを重要視した社会へと移行すべき時期が来ている。生活の質(Quality of Life)を高め、余暇活動をより充実させることが重要な政策の一つになりうると考えられる。また、高齢社会へと移行し、高齢人口割合が高くなることによる社会保障費の増加等の問題も考慮した政策も検討していく必要がある。

余暇活動の中でも、日常的なスポーツ・レクリエーション活動は心身の健康増進において重要な役割を果たす。高齢者の健康維持・増進だけでなく、病気を未然に防ぐ予防医学の観点からも、医療費の削減という長期的な社会的コストの削減につながることから、社会全体でのメリットが大きいといえる。

最近の余暇活動の上位20位をみると(表・1)、「日常型レジャー」が増加する傾向があり、平成20年の内訳をみると、「パソコン」(5位)の420万人増をはじめ、「ビデオの鑑賞(レンタル含む)」(7位)、「音楽鑑賞(CD、レコード、テープ、FMなど)」(10位)「テレビゲーム(家庭での)」といった巣籠もり消費の大幅な伸びが指摘されている¹⁾。しかしながら、スポーツ・レクリエーション型の余暇活動はかろうじて「ジョギング、マラソン」(16位)、「ピクニック、ハイキング、野外散歩」(17位)、「ボウリング」(19位)が入っているのみである¹⁾。

スポーツ・レクリエーション型の余暇活動を促進するためには、施設整備のみならず、ソフトな対策も必要であるが、本稿では日常的なスポーツ・レクリエーションに着目した余暇活動のためのまちづくりとインフラ整備に焦点をあて、考察を加えることとする。

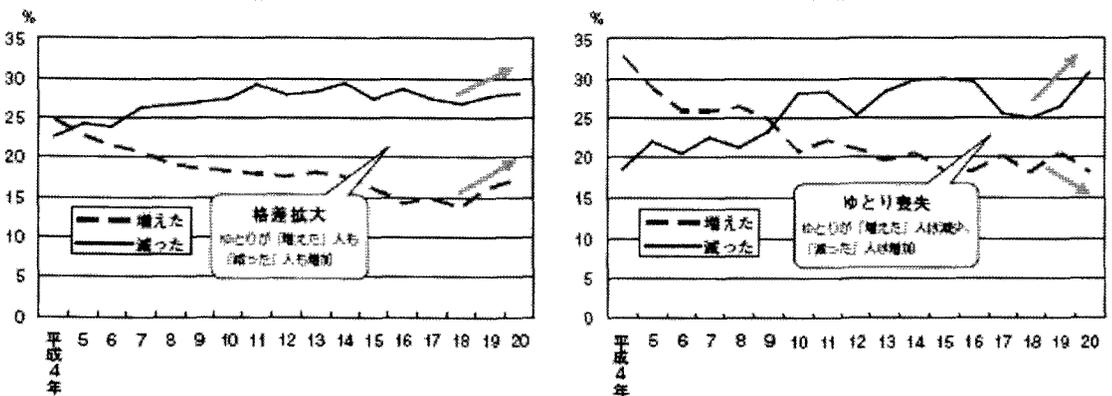


図-1 時間的ゆとり(左図)と経済的ゆとり(右図)(出典:レジャー白書 2009¹⁾)

表-1 余暇活動の参加人口上位 20 位 (平成 19～20 年) (出典: レジャー白書 2009¹⁾)

平成19年			平成20年		
順位	余暇活動種目	万人	順位	余暇活動種目	万人
1	外食 (日常的なものを除く)	7,200	1	外食 (日常的なものを除く)	7,370
2	国内観光旅行 (避暑、遊楽、温泉など)	5,700	2	国内観光旅行 (避暑、遊楽、温泉など)	6,020
3	ドライブ	5,130	3	ドライブ	5,140
4	カラオケ	4,310	4	宝くじ	4,560
5	ビデオの鑑賞 (レンタルを含む)	4,240	5	パソコン (ゲーム、趣味、通信など)	4,470
6	宝くじ	4,230	6	カラオケ	4,430
7	動物園、植物園、水族館、博物館	4,160	7	ビデオの鑑賞 (レンタルを含む)	4,400
8	パソコン (ゲーム、趣味、通信など)	4,050	8	映画 (テレビは除く)	4,140
9	映画 (テレビは除く)	4,010	9	動物園、植物園、水族館、博物館	4,030
10	音楽鑑賞 (CD、レコード、テープ、FMなど)	3,800	10	音楽鑑賞 (CD、レコード、テープ、FMなど)	3,960
11	バー、スナック、パフ、飲み屋	3,440	11	バー、スナック、パフ、飲み屋	3,310
12	テレビゲーム (家庭での)	3,180	12	テレビゲーム (家庭での)	3,300
13	園芸、庭いじり	3,050	13	園芸、庭いじり	3,280
14	遊園地	2,860	14	トランプ、オセロ、カルタ、花札など	2,910
15	トランプ、オセロ、カルタ、花札など	2,810	15	遊園地	2,780
16	ピクニック、ハイキング、野外散歩	2,830	16	ジョギング、マラソン	2,550
17	ボウリング	2,510	17	ピクニック、ハイキング、野外散歩	2,470
18	音楽会、コンサートなど	2,440	18	音楽会、コンサートなど	2,420
19	博覧会	2,320	19	ボウリング	2,350
20	ジョギング、マラソン	2,280	20	博覧会	2,340

* 数字は参加人口の増減を表す。

2. 余暇活動のためのまちづくり

これまで、まちづくりはどちらかというと、産業の発展や「働く」ことを重視して行われてきたといえるが、前述のように社会経済が成熟するにつれて、住民の生活を重要視したまちづくりの考え方が重要となろう。図-1 からも、時間消費型の余暇活動を支援するようなサービスの提供や施設整備を行っていく必要が認められる。

余暇活動も様々であるが、本稿では、国民の健康維持・増進に貢献する日常的なスポーツ・レクリエーション活動として人気が高いウォーキングを取り上げることとする(図-2)。ウォーキングは、心身の健康維持においてその重要性が認められ、自治体やコミュニティは個人の活動を促進するための働きかけを行っている。例えば、袋井市では、住民の健康生活を守る社会福祉の向上と、医療費の増大という社会コストを削減を目的として、平成19年に「健康マイレージ制度」を設立し、「『歩く』を核としたまちづくりと健康文化の定着」に取り組んでいる。同市では特に30～50歳代の住民に焦点をあてているが、その背景として、図-3に示すように、時間的な制約もあり、60歳までのスポーツに費やす時間は短くなっている。そこで、短時間でも「歩く」ことを促進させるようなまちづくりに取り組むことで、住民の健康維持・増進を図ろうとしている。

このようなまちづくりを土地利用や施設整備の観点からとらえると、自動車に頼らず徒

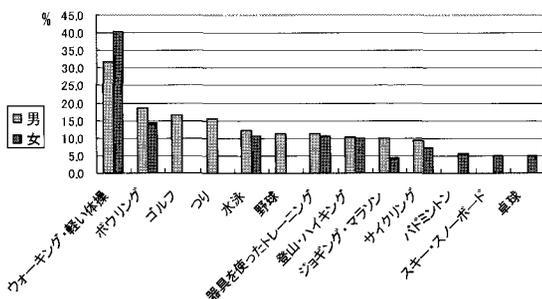


図-2 男女、主なスポーツ

(出典: 平成 18 年社会生活基本調査²⁾)

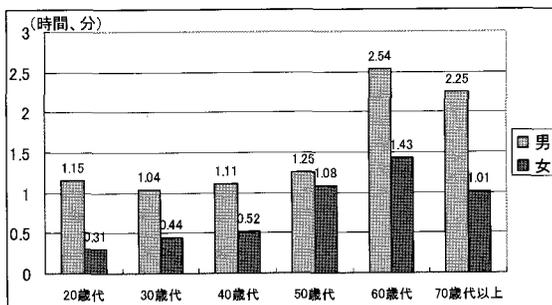


図-3 男女、年齢階級別 1 週間のスポーツ時間

(平成 18 年)-20 歳以上-

(出典: 平成 18 年社会生活基本調査²⁾)

歩や公共交通機関による生活が可能な都市施設や交通基盤施設を配置した都市構造（郊外部の拡大を抑止し都心への機能集中）の実現が望ましい。しかし、この問題全体を扱うことは困難であることから、ウォーキングという軽いスポーツを行う場を提供する空間としての公園の整備によるまちづくりに焦点をあて、次章で公園整備の状況について考察する。

3. 公園の整備状況

公園内のデザインも重要であるが、まちづくりの観点から公園の配置、規模、種類等の要素に着目しなければならない。すなわち、どのような公園がまちの中でどこに何カ所配置されているか、住んでいる場所から容易にアクセスできるかが重要である。住宅地から遠く自動車でしかアクセスできないような場所に立地する大規模な公園では誰もが日常的に利用できる施設とはなりえず、日常的に利用できる範囲に公園があることが余暇活動、ここではウォーキングを促進させるのである。

我が国における公園の整備状況を見ると（図-4）、1人あたりの都市公園面積は増加してきている。しかしながら、我が国の都市における公園の整備状況を他国の都市と比較してみると、全国で高レベルにある神戸市（北海道を除く）でさえ、パリ以外の都市より低い水準となっている（図-5）。

また、都市規模別1人当たり都市公園面積をみると、人口の少ない都市において整備水準が高くなり、都市規模別公園面積率でみると、人口の多い都市において整備水準が高くなっている（図-6）。この結果から、人口密度の低い地方都市においては1人あたりの公園

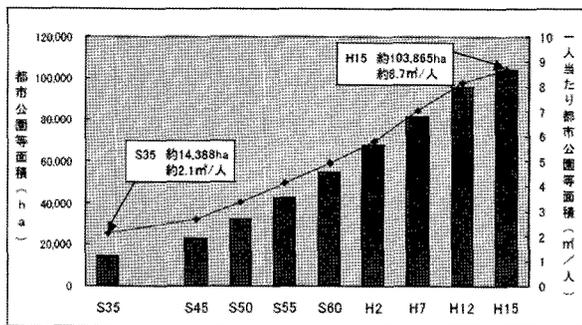


図-4 都市公園面積の推移
(出典:都市公園データベース³⁾)

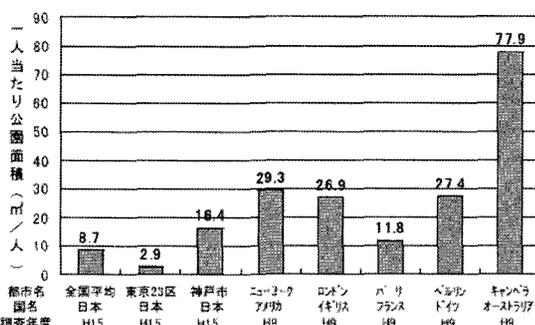


図-5 外国の各都市との1人当たり公園面積の比較
(出典:平成15年度末都市公園等整備現況⁴⁾)

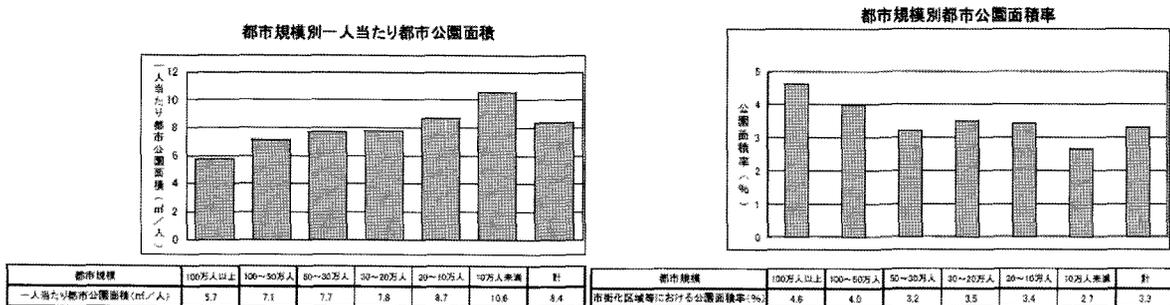


図-6 都市規模別1人当たり都市公園面積・都市規模別都市公園面積率
(出典:都市公園データベース³⁾)

面積は高くなるが、面積率で低くなることから、概して居住地から遠くなりがちであることが推測される。

また、都市公園等施設には様々な種類の公園・緑地が含まれるが(表-2)、日常的なスポーツ・レクリエーションの場としては、住区基幹公園(街区・近隣・地区公園)が重要であると考えられる。例えば近隣公園でみると、都道府県の面積の差にもよるが、最も多い千葉県(北海道を除く。204箇所)と最も少ない鳥取県(17箇所)では、約12倍の差が生じている³⁾。

表-2 種別毎の都市公園等整備状況(平成20年3月時点)(出典:都市公園データベース³⁾)

	箇所数	面積(ha)	備考
住区基幹公園	83,145	31,144	
街区公園	76,272	12,673	
近隣公園	5,215	9,361	
地区公園	1,658 (174)	9,110 (1360)	カントリーパークを含む []内の数字はカントリー パークを示す
都市基幹公園	2,039	35,865	
総合公園	1,296	23,872	
運動公園	773	11,993	
大規模公園	207	14,093	
広域公園	201	13,554	
レクリエーション都市	6	538	
緩衝緑地等	9,806	29,610	
特殊公園	1,271	12,915	
緩衝緑地	188	1,590	
都市緑地	7,174	13,452	
都市林	104	415	
広場公園	269	350	
緑道	794	667	
国営公園	16	2,495	
合計	95,207	113,207	整備水準 9.4㎡/人

4. おわりに

本稿では、成熟社会において、多世代の生活の充実、健康の維持・増進につながるようなまちづくりとインフラ整備が必要であることを述べ、公園に着目して整備状況を考察した。今後は公園の配置と活用状況について、詳細に調査する必要がある。また、スポーツ・レクリエーション型の余暇活動が活発化するような公園や緑地の整備だけでなく、徒歩や公共機関を利用して外出することで、日常の行動や日常的な余暇活動が活発化するようなまちづくりについても検討していきたいと考えている。

なお、本稿で示した内容は私的見解であり、国土交通省の正式見解ではございません。

参考文献

- 1) 財団法人日本生産性本部(2009)「レジャー白書2009」
- 2) 総務省(2008)統計トピックス No.31 スポーツ行動・時間及びスポーツ関係費の状況 - 「北京オリンピック」にちなんで - (「社会生活基本調査」及び「家計調査」の結果から)
- 3) 国土交通省「都市公園データベース」http://www.mlit.go.jp/crd/park/joho/database/t_kouen (2009.10.13)
- 4) 国土交通省(2004)「平成15年度末都市公園等整備の現況について」